

共同助成(兵庫県遊技業協同組合)

「こどもたちの茶道による癒しのサロン」事業

日本の伝統文化の一つである茶道の習得を通じて 若者の社会参加を促すとともに精神の成長を図る

古来より続く自国の伝統文化を体験し、その恩恵に与る機会がすべての子どもたちに与えられてはじめて、私たちが生きる社会は品格ある社会と言えるようになるのではないだろうか。そうした問題意識のもと、茶道を習得することで若者が自信や自尊心を持ち、社会参加の備えができるよう取り組んでいる団体が神戸市にある。



児童養護施設や特別支援学校、一般の子どもたちを対象に茶道教室を開催



茶会の開催を目標に作法を学んだ

児童養護施設や特別支援学校の子どもたちに 日本の伝統文化である茶道に触れる体験を

青少年、高齢者、障がい者などを対象に、伝統文化の継承、心の癒しなどに関する事業を行うことで、青少年の健全育成と高齢者などの福祉の増進に寄与することを目的に神戸市で設立されたNPO法人「いちごいちえ」は、兵庫県立神戸北高校茶道部指導、学生たちによる震災追悼茶会、高齢者施設・特別支援学校・児童養護施設などでの体験茶会などの活動に取り組んでいる。

理事長の天野八恵子さんは、「収入の格差が広がり、ともすると容易に経済的弱者にならざるを得ない若者が増えつつある昨今、茶道を気軽に習うことは難しい。とりわけ特別支援学校に通ったり、児童養護施設に入所する子どもたちに作法習得を通じて達成感や自己肯定感を得て

もらうとともに、茶を供することで他者から感謝される経験を得てもらいたい。また、作法習得を通じ、己を常に見つめ直すことで、己を見失わない芯のある人間に成長し、精神的、社会的自立を果たしてほしいと考えています」と話す。

そうした思いから同法人では昨年度、AJOSCの助成を受け、児童養護施設や特別支援学校の子どもたち、さらに一般の子どもたちを対象に茶道教室(サロン)を催した。児童養護施設は2カ所で計10回、特別支援学校は10回、一般の子どもたちは3回と、全23回(各回10~30人参加)の実施となったが、各回とも茶会の開催を目標に、高校生は主人として茶をたてる作法、小中学生は客としての作法やお茶やお菓子の扱い方を中心に学んだ。

茶道の作法を積極的に身につけることが 自信や自己肯定感を育むうえで有益

同法人の天野さんは「児童養護施設の子どもたちは回を重ねるごとに作法を身につけ、他者の前でそれを披露することに積極的になっていきました。また、施設の卒園生が茶道初級資格の取得を目標に掲げ、それを成し遂げることができました。特別支援学校の卒業茶会では各自がきびきびと自分の役割を果たし、大人が一切手を出すことなく、素晴らしい茶会にすることができました。先生方の笑顔のみならず、子どもたちの自信に満ちた笑顔がとても印象に残りました。一般の子どもたちは個人差が大きいものの、高校生はかなり熱心に作法を習得してくれて、今後が楽しみです」と、その印象を語る。

また、「子どもはのみ込みがとても早く、回数を重ねるごとに着実に作法を吸収するさまは、教える側やそれを見守る大人の喜びとなりました。さらに、この事業が本人の自信

や自己肯定感を育むうえで有益な行為であると再認識できました」とのこと。「助成があったことで、備品である茶碗をはじめ、濃茶、和菓子も人数分揃えることができ、指導することに集中できたうえ、協力してくれた講師の方々にも謝礼を渡すことができました」。児童養護施設や特別支援学校の先生方からは継続を望む声も多数寄せられ、参加した子どもたちからも感謝の手紙がたくさん届いているという。伝統文化が社会的に弱い立場に置かれている子どもたちの心に自信の灯をともし、自立へ向けて背中を押す役割を果たしたと言えるだろう。

兵庫県遊技業協同組合より

茶道の作法を学べる機会が少ない子どもたちにとって、貴重な時間になったと思います。これからも継続的な活動を願います。



茶会の開催を告知するチラシ



子どもたちは真剣な表情で作法を学ぶ

助成団体: 特定非営利活動法人 いちごいちえ

<http://itigoitieamano.web.fc2.com/>



茶道を通じ、主体性や自尊心を身につけてほしいと思います

これまでは経済的な理由から十分、時間をかけられなかったことがしっかりできて、将来、子どもたちが茶会に参加できるようになるという一つの目標を達成することができました。また、中学生には茶道が何であるかを理論的に考えるためのレジュメを渡し、各自が学びかけを与えることができました。スタッフ一同、心から感謝しております。

特定非営利活動法人 いちごいちえ
理事長 天野 八恵子さん